

2025年3月27日(木)
「第15回国際海上コンテナの陸上輸送に係る安全対策会議」

Cyber Portの取組について

2025年3月27日

国土交通省 港湾局 参事官(港湾情報化)室

サイバーポート三分野の概要

サイバーポートの導入目的

- 現状、紙、電話、メール等で行われている港湾関係者間のやり取り等を電子化し、港湾を取り巻く様々な情報が相互に繋がる環境を構築することで、港湾全体の生産性向上を図る。

サイバーポートの全体像

サイバーポートとは、下記の3分野の情報を一体的に取り扱うデータプラットフォームであり、相互のデータ連携を可能にする。

- ① **港湾物流分野**: 民間事業者間(BtoB)の港湾物流手続 ② **港湾管理分野**: 港湾管理者へ(BtoG)の行政手続や調査・統計業務
 ③ **港湾インフラ分野**: 港湾の計画から維持管理までのインフラ情報



① 港湾物流分野 (2021年4月運用開始)

コンテナ貨物に関する民間事業者の手続を電子化し、効率的な物流を実現



② 港湾管理分野 (2024年1月運用開始)

港湾管理者手続の電子化、
調査・統計業務の効率化
を実現



入出港関連手続
港湾施設関連手続等



港湾に係る統計調査
(港湾調査等)

③ 港湾インフラ分野 (2023年4月運用開始)

港湾施設の計画から維持管理までの一連の情報を電子化・一元管理を行い、効率的なアセットマネジメントを実現

施設整備
(設計・施工等)

維持管理

港湾台帳

港湾計画

利用情報

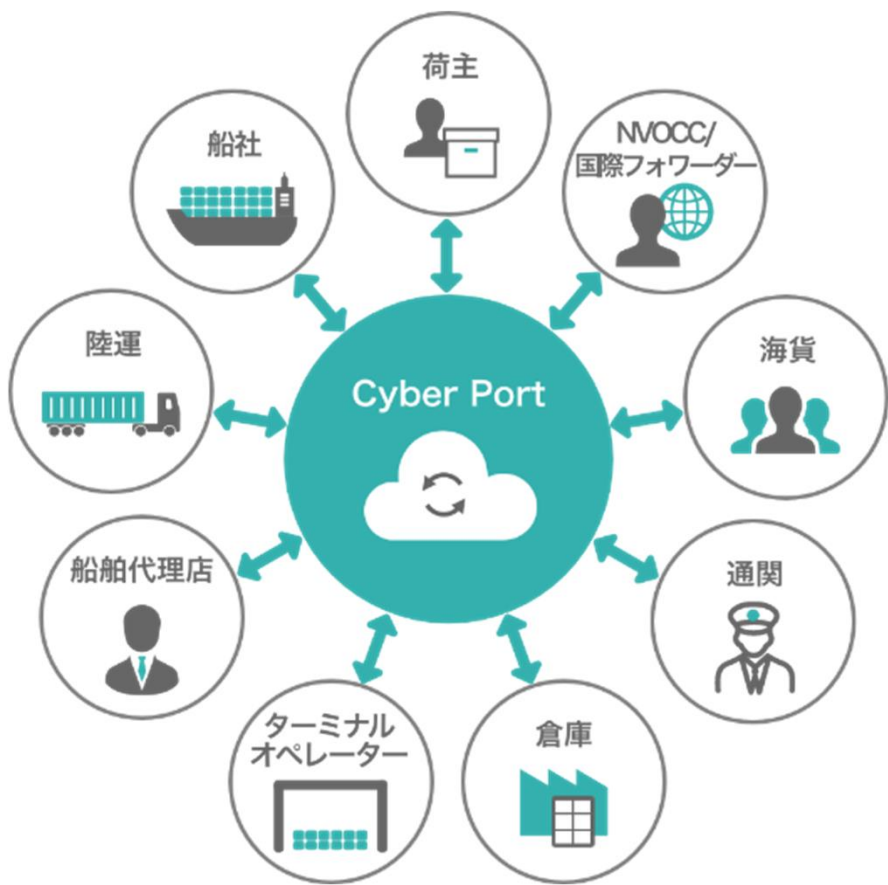
相互に情報連携

概要

対象手続	民間事業者間のコンテナ物流手続
対象事業者	荷主、外航船社、内航船社、NVOCC／フォワーダー、海貨業者、通関業者、ターミナルオペレーター、陸運業者、倉庫業者、船舶代理店、届出荷送人、登録確定事業者
主な機能	✓ データプラットフォーム機能(帳票作成/情報連携/手続依頼等) ✓ 業務支援機能(帳票テンプレート/タイムライン(履歴確認)/既読確認/タスク管理/帳票データ一括DL/メッセージ送受信/ファイル添付等) ✓ NACCS連携機能(CP上でNACCS業務(82業務コード対応)を実行) 等
導入効果	業務効率化、手続可視化 等 (2021年度の実証事業で最大60%の時間削減効果を確認)
利用方法	➢ ブラウザ(GUI)利用 ➢ 自社システム等とのAPI連携
稼働	2021年4月運用開始
利用料金	2026年3月まで:無料 2026年4月～:6,600円/(月・社)

Cyber Port の目指す姿

港湾物流に関わる全ての関係者・システムを繋ぐことで、全体最適化



The diagram is divided into two parts. The left part, titled '現状の事業者間の情報伝達イメージ' (Current information exchange image), shows a fragmented process. It involves entities like '荷主' (Shipper), '船会社' (Shipping Company), '陸運' (Land Transport), '海貨' (Cargo), and '税関' (Customs). Information flows through various channels: FAX for S/I, '自社システム' (Self-system) for ship reservations, TEL for confirmation, Email for empty PUOs, and manual input for cargo. Documents like I/V and P/L are created and sent via FAX to customs for permits. The right part, titled 'Cyber Portを活用した事業者間の情報伝達イメージ' (Information exchange image using Cyber Port), shows a streamlined, integrated system. All entities connect to a central 'Cyber Port' hub. Documents (S/I, ship reservations, empty PUOs, I/V, P/L) are processed sequentially within the hub, labeled '書類間の情報連携' (Information linkage between documents). This system is supported by '港湾管理' (Port Management) and '港湾インフラ' (Port Infrastructure), with the overall goal of '情報の利活用' (Effective use of information).

事業種別の情報伝達方法

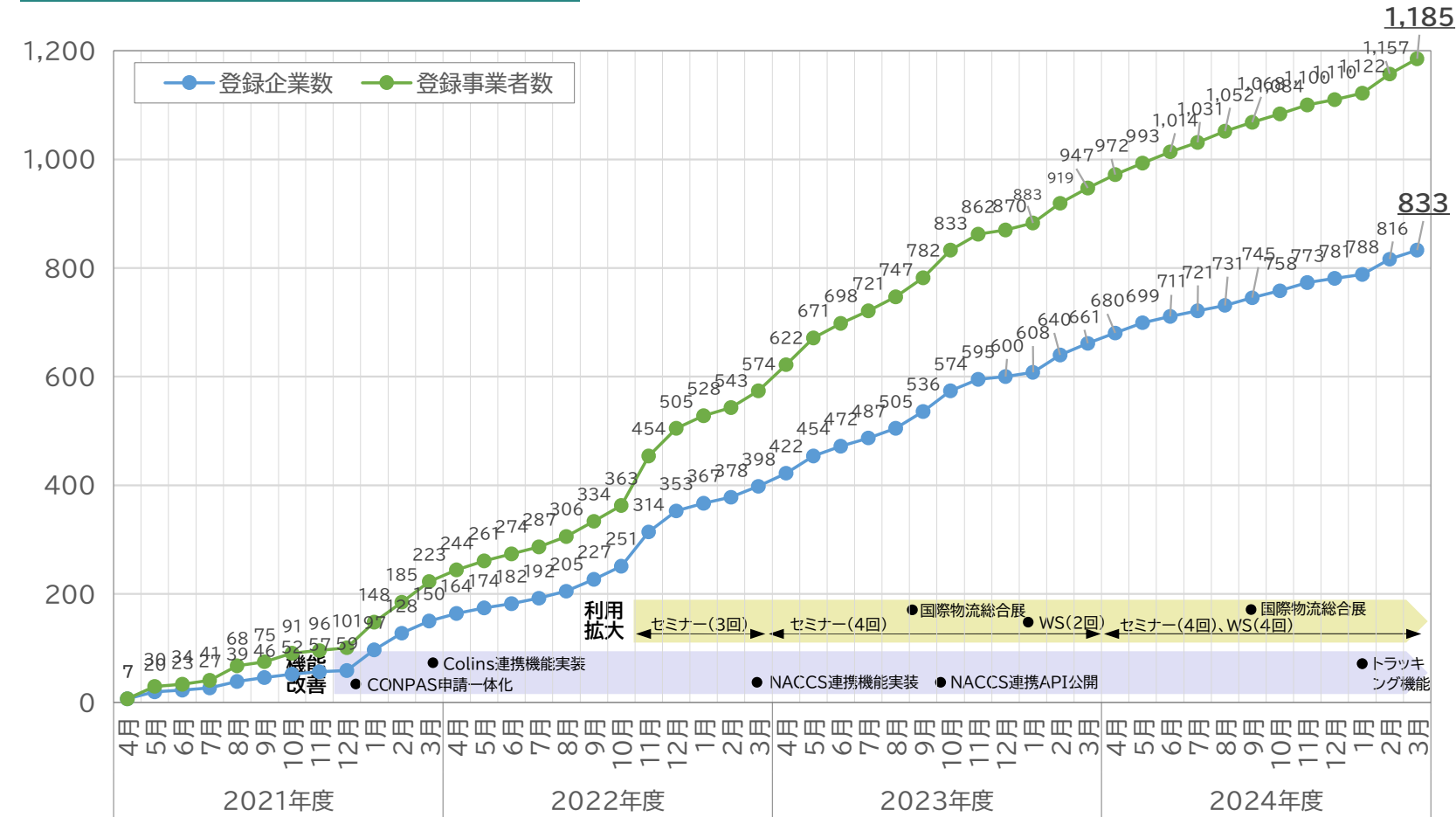
Legend:

- 電子化 (Digitalization)
- メール添付 (Email Attachment)
- 紙・電話等 (Paper, Phone, etc.)
- その他 (Others)

事業種別	電子化	メール添付	紙・電話等	その他
荷主	1.2%	8.9%	29.4%	60.6%
海貨	0.4%	13.5%	25.5%	60.5%
外航船社	1.1%	38.4%	20.6%	39.9%
陸運	2.4%	30.2%	19.8%	47.5%

2021年4月の運用開始以降、順調に利用登録が進み、
2025年3月時点で利用登録社数は**833社**、事業種別登録数は**1,185者**。

利用登録社数・事業種別登録数



事業種別申請数

事業種別	登録数
荷主	81
外航船社・内航船社	10
NVOCC/フォワーダー	127
海貨業者	87
通関業者	323
ターミナルオペレータ	29
陸運業者	405
倉庫業者	66
船舶代理店	17
届出荷送人	8
登録確定事業者	32
計	1,185

サイバーポートが目指すのは、港湾物流手続に関する「データプラットフォーム」として、異なるシステムや関係者を「繋ぐ」役割。貿易DX実現のため、更なる利用者の拡大やネットワーク拡充に向けた取組を推進。

利用者拡大に向けた取組

認知度向上のための情報発信から導入意向のある企業への導入サポート等、多層的な取組を推進

展示会への出展



ワークショップ



情報発信・認知度向上

- ✓ プレスリリース
- ✓ 各種メディアへの広告掲載
- ✓ ポータルサイトの充実 等

導入意向企業の抽出

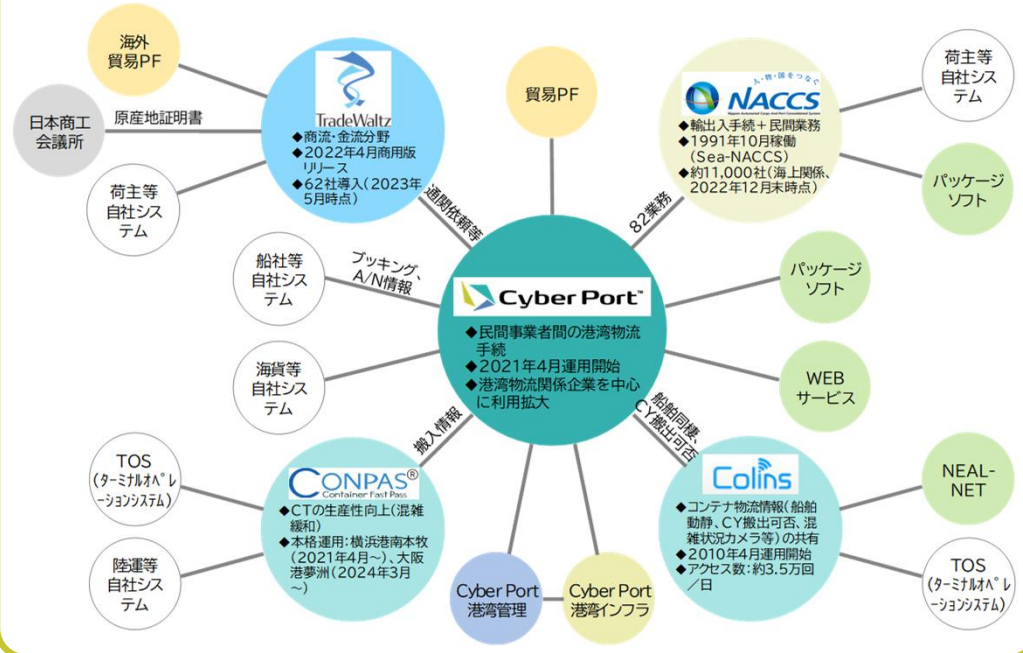
- ✓ 展示会等への出展
- ✓ セミナー
- ✓ ワークショップ 等

導入・実利用に向けたアプローチ

- ✓ 体験版申込
- ✓ 導入支援
- ✓ プロジェクト化 等

ネットワーク拡充に向けた取組

関連プラットフォームとの連携機能の実装・拡充やパッケージソフトとの連携を推進



その他の取組

他省庁と連携したデジタルトランスフォーメーション(DX)の機運醸成やデータ利活用等の将来の機能実装に向けた検討等を推進

例)「貿易プラットフォーム利活用に向けた検討会」(経済産業省主催)への参画、データ利活用機能の具体化(海外事例や国内関係者を対象としたデータ利活用ニーズの調査) 等

コンテナ貨物搬入票のデジタル化

- コンテナ貨物搬入票のデジタル化に向けて、トライアル等の取組を実施。
- 2025年2月17～21日に実施したトライアルでは、東京・横浜の3ターミナルで計111件の搬入を対象に、サイバーポート上での搬入票の作成とCONPASを介したターミナルへの照合を検証した。今後は、必要な機能改善を行い、関係者の輪を広げつつ常時運用の開始や他ターミナルへの展開等を順次進める。

2023年10月トライアル

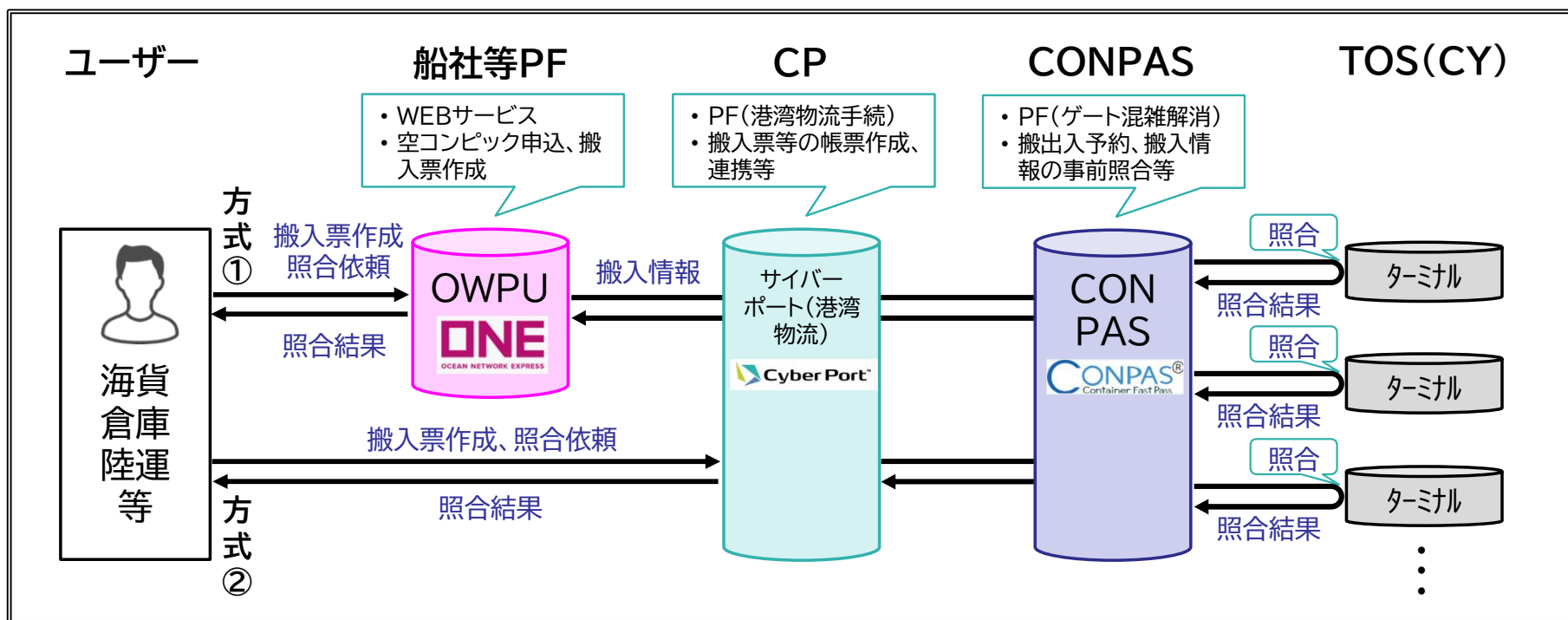
- ✓ 方式①:OWPU入口
- ✓ CY:横浜港南本牧
- ✓ 倉庫現場でのPCによる情報入力に課題

OWPU,CPそれぞれで機能改善を実施(モバイル対応等)

2025年2月トライアル

- ✓ 方式②:CP入口
- ✓ CY:東京港大井2号、大井4号、横浜港南本牧
- ✓ 計111件の搬入票作成・照合を実施

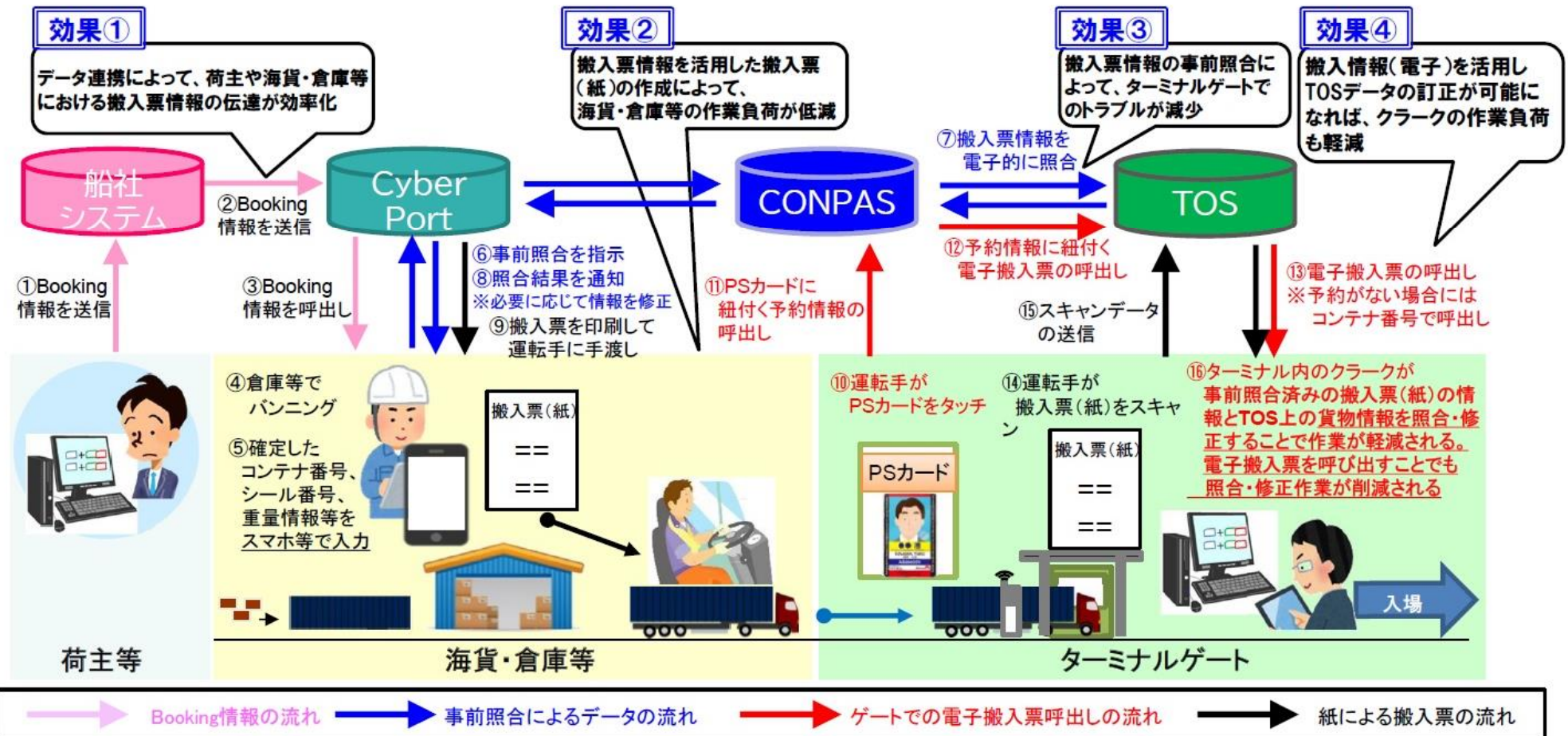
常時運用の開始、他ターミナルへの展開等を順次進める



(参考)搬入情報の事前照合機能

- 搬入コンテナ(実入り)がターミナルに到着する前に、船社のシステムに入力されている搬入票(電子)をCyberPortとCONPASとTOSが連携し、TOSが保有する貨物情報と事前照合することで、ゲート手続きのトラブルを回避し、ゲート処理時間の増加を抑制する目的。
- 将来的には搬入票(紙)を廃止することで、クレーンによる搬入情報確認作業の負荷を大幅に軽減するなど、更なる業務効率化を実現。

◆搬入票(紙)と事前照合機能を併用する場合



(参考)モバイル版:3点情報入力

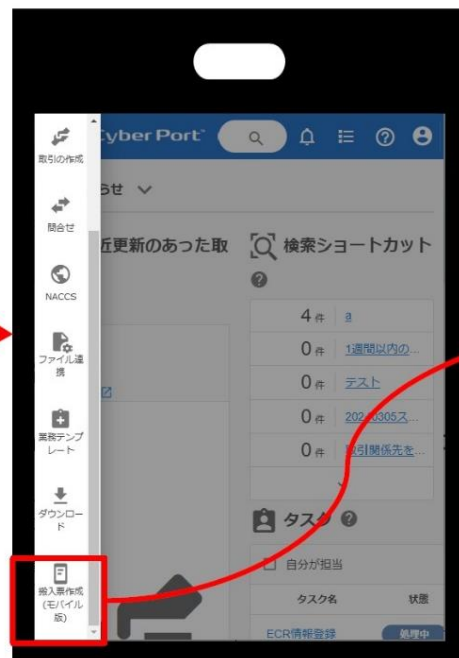
機能改善・変更内容について(2025年2月3日リリース) Cyber Port™

- コンテナ貨物搬入票(輸出/実入り)の帳票項目は、主にブッキング情報(ブッキング番号/本船/航海番号等)とコンテナ情報(コンテナ番号/サイズ/タイプ/シール番号/VGM等)により構成されています。
- 実業務における搬入票の作成においては、ブッキング情報及びコンテナ情報の一部は事前に把握し搬入票に記入することができますが、コンテナ情報のコンテナ番号/シール番号/VGM等の、バンニングを行う倉庫業者しか把握できない情報は、当該倉庫業者が現場で記入しているケースが多く存在します。
- このようなケースでは、倉庫の現場でパソコン上からサイバーポートを操作して情報を入力することにハードルがあるとの声をいただいていたので、この度、搬入票の一部項目をタブレット等のモバイル端末から入力できる機能をリリースしました。



倉庫業者等

- ・ サイバーポートのログインフローは同じ。
(利用者ID・パスワードでログイン&2段階認証)
- ・ モバイル端末へのアプリケーション等のインストールは不要。Webブラウザから利用可。



搬入票作成(モバイル版)の利用方法

搬入票新規作成&入力

搬入票を新規作成/更新/送信する組織

海貨 輸出事業代理サービス部

コンテナ番号
TESU1234567A

COMPAS用ターミナルコード
XXXXXXXXX

コンテナ長さコード
20ft

コンテナ高さコード
8ft 6in

コンテナタイプコード
GP : General purpose / ドライ

シール番号
シール番号1
SEAL12345

コンテナ確定総重量(VGM)
3000 KGM

コンテナ自重
2000 KGM

届出荷送人番号・登録事業者番号
自社の番号 取引内他社の番号
XXXXXXXXXXXX

会社名
TEST株式会社

責任者
TEST太郎

電話番号
03XXXXXXXX

日付
2025/02/03

キャンセル 保存

UL090:コンテナ貨物搬入票を作成/更新

海貨 輸出事業代理サービス部

がUL090:コンテナ貨物搬入票を作成/更新します。

自動でUL090:コンテナ貨物搬入票を作成します。
作成後入力した内容を搬入票へ反映して更新します。
よろしいですか?

キャンセル OK

UL090:コンテナ貨物搬入票の送信

あなたの組織
海貨 ITUSER組織 海貨業者

が帳票を送信します。

保存した帳票を取引関係先に向けて送信します。
よろしいですか?

☐ 送信後に自動で事前照合依頼を行う

キャンセル 帳票を送信する

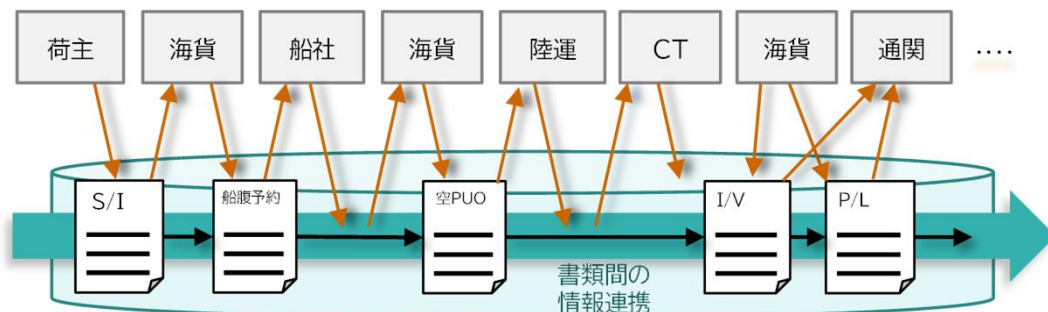
- 必要項目を入力し保存ボタンを押下すると、上記画面に遷移。OKボタンを押下することで保存される。(既存仕様)
- エラーがある場合はその旨が表示される。

- 保存した内容を送信する。(既存仕様)
- 事前照合機能のチェックボックスにチェックを入れて送信を行うと、搬入情報事前照合依頼が行われます。

サイバーポートでは、届出荷送人・登録確定事業者のマスタを有しており、自社又は取引内の関係先の届出／登録番号をプルダウンで選択すると会社名等が自動で反映される。

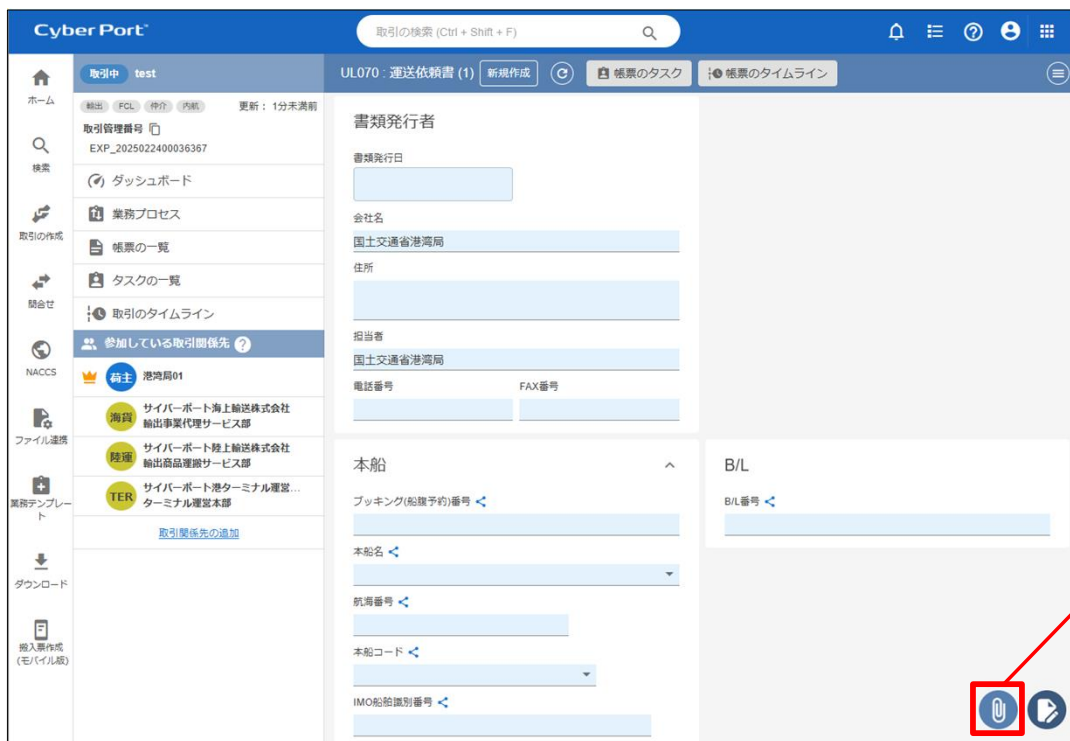
コンテナ内の積付情報等の共有

○ サイバーポートでは、各種帳票に画像ファイルを添付して、関係者間で共有する仕組みを有していることから、コンテナ内の積付情報等を共有することも可能。



＜陸運事業者への積付情報等の伝達に活用可能と想定されるサイバーポートの帳票の例＞

- ✓ 運送依頼書(輸出/輸入)
- ✓ コンテナ貨物搬入票(輸出) ※重量情報も掲載
- ✓ 荷渡指図書(輸入)



開錠後 Big Bale例

開錠後 Halfcut Wrap例

(出典)第14回国際海上コンテナの陸上運送に係る安全対策会議 資料2

＜サイバーポートの添付ファイルの要件＞

- ・ ファイル形式:画像(jpg, jpeg, gif, png, tif, tiff, bmp)、アプリケーション(pdf, xls, xlsx)
- ・ 添付可能なファイル数は1帳票あたり最大10ファイル
- ・ 添付できるファイルサイズは1ファイルあたり最大10MB

○ 依然として紙・メールでのやりとりがされている危険品関連書類(危険物明細書、危険物・有害物事前連絡表)について、サイバーポートを用いて、帳票の作成や関係者への連絡等をデジタル化し、危険品関連の業務の効率化を実現する。

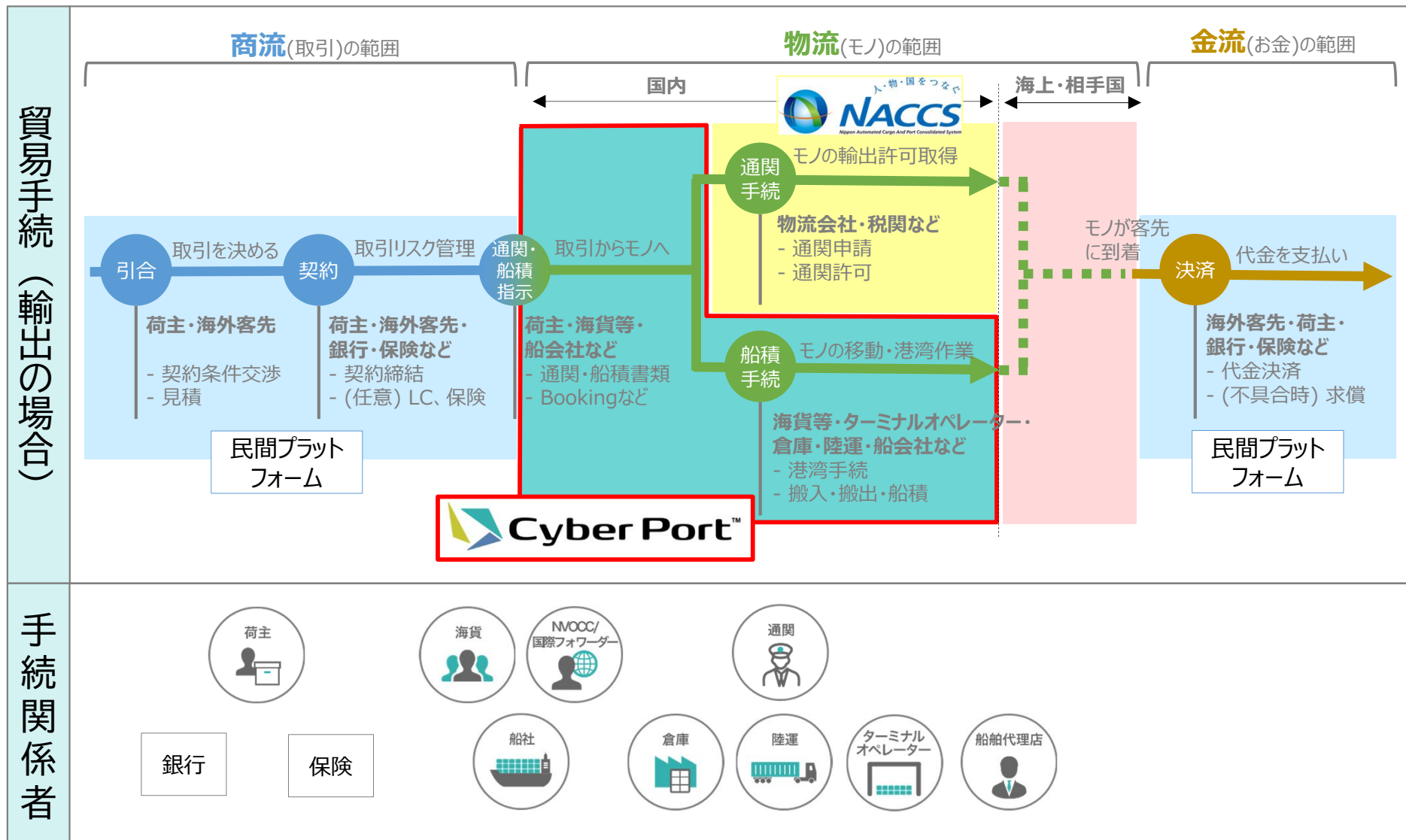
- 【対象帳票】 危険物明細書(赤紙)、危険物・有害物事前連絡表(白紙)、関連書類(DGリスト等)
- 【関係者】 荷主、海貨、倉庫、ターミナル、船社、港湾貨物運送事業労働災害防止協会(港湾労災防止協会)
- 【導入効果】
[荷主・海貨・倉庫等] 赤紙・白紙の作成・提出の効率化等
[港湾労災防止協会] 白紙の受領・確認の効率化等
[ターミナル] DGリスト作成の効率化等
- 【進め方】 現場での業務に即した電子化を実現できるよう、横浜、名古屋、大阪の3支部(港湾)を対象に、業務ヒアリングを行った上で機能を構築し、トライアルにて検証する。

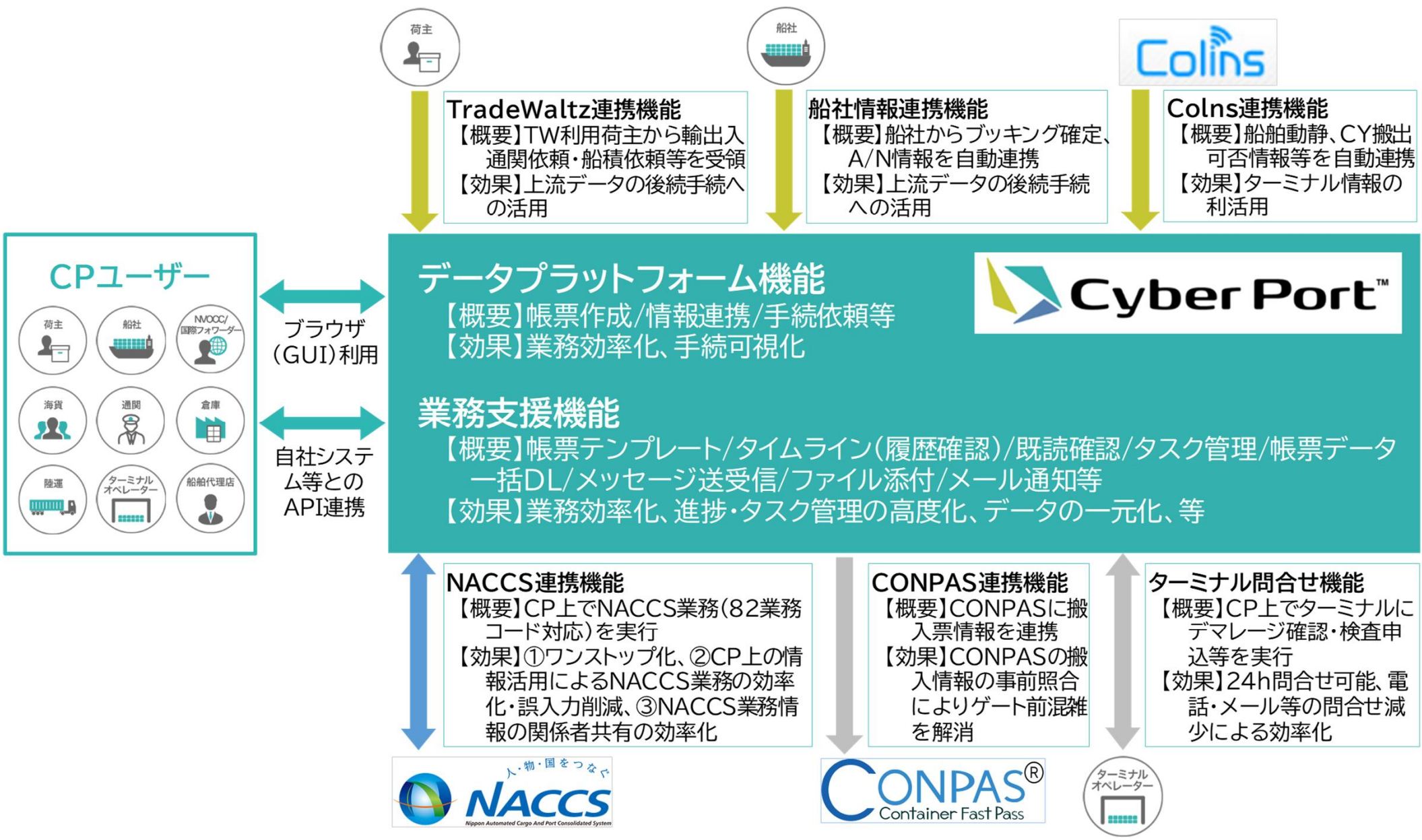
年度	2024d												2025d				2026d	
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~9	10~3
関係者調整 (協会等)				追加確認 事項の集 約・回答 の展開	トライア ルを実施 する支部 の特定												機能リリース 順次、全国に展開	
業務ヒア							トライアル実 施支部の業務 ヒア	トライアル実施支部にお ける関係事業者の業務 ヒア										
機能構築										要件定義、設計			構築、テスト			(要すれば) 改善		
トライアル													トライアル 内容調整、 事前設定、 操作説明	トライアル				

參考資料

Cyber Port の対象範囲

サイバーポートは、貿易手続全体のうち港湾物流手続を対象。
 周辺の手続を担うプラットフォームとも連携・整合をとりつつ、全体としてデジタル化を推進。





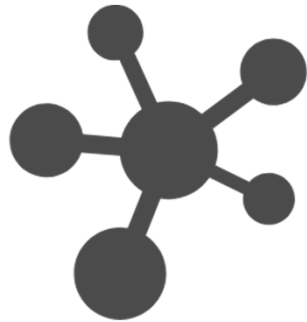
<Cyber Port の役割(国運営PF)>

- 民間PF・自社システム等がある中で、Cyber Port の立ち位置は「データ連携の基盤＝情報インフラ」。
- 中小企業も含め、負担感の少ない低廉な価格で、各社共通に必要な機能を備え、多様なシステムを“繋ぐ”PF。
- 各システムが得意とする部分を生かし、Cyber Port はシステム間での必要なデータ連携を実現するための基盤として機能。

<連携事例>

社内外との連携

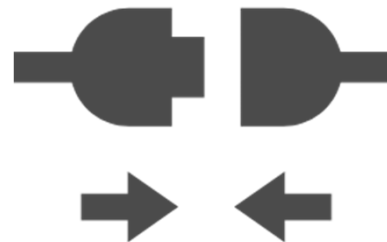
社内外への手続・作業依頼／受付、情報連携等を実施



- 『TradeWaltz』by TradeWaltz様(輸出入通関依頼等)
- 『Power-T』by三井倉庫様(空コンピックアップオーダー)
- 各TOS(宇徳様、鈴江様、YPM様)
※ターミナル問合せ機能
- 自社システム 等

NACCS業務

Cyber Port を経由してNACCS業務を実施



- (複数のパッケージソフト、Webサービスで連携機能を構築中)
- 自社システム 等

各Webサービス連携

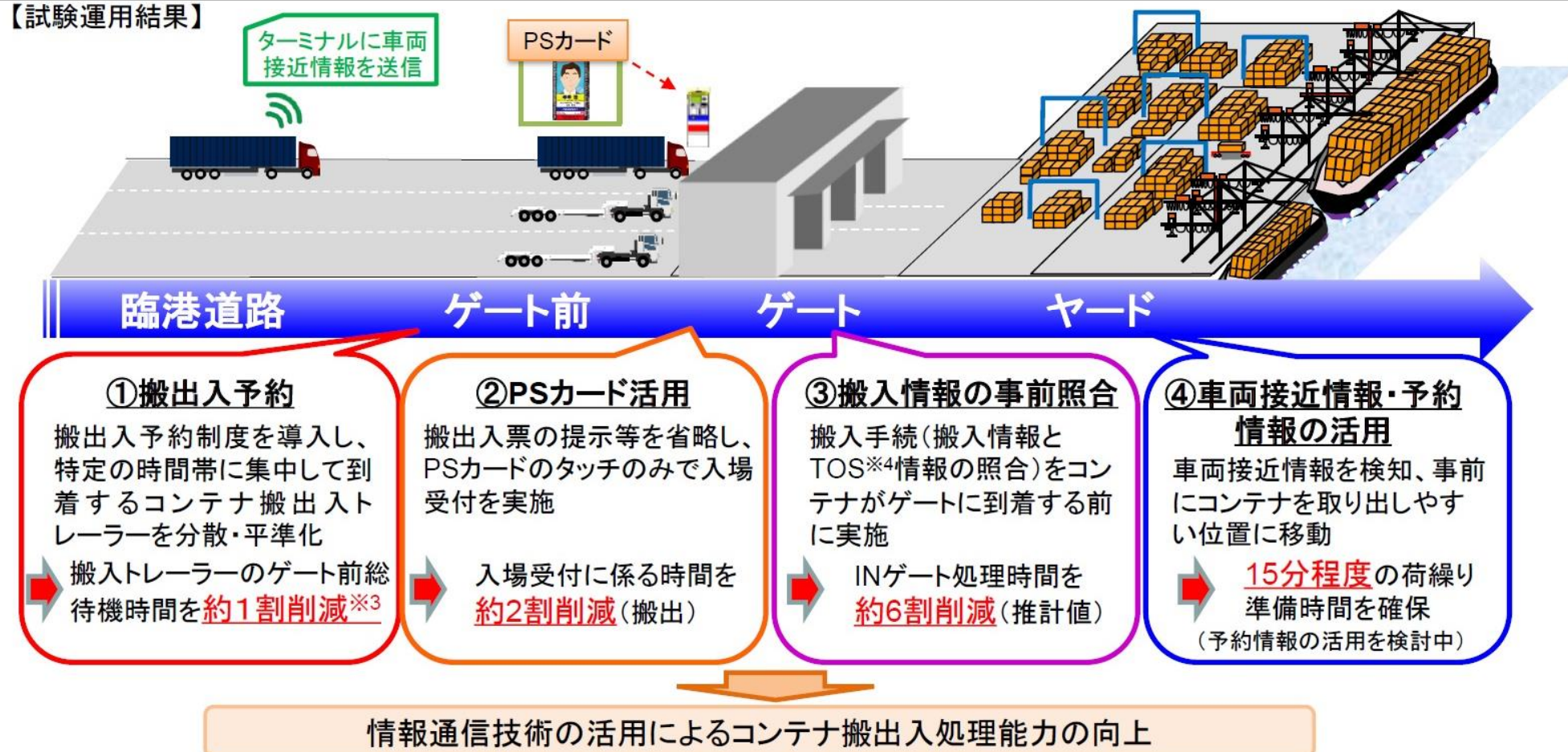
各サービスの提供に必要な情報をCPから取得



- 『MonCargo』by MonCargo様(ブッキング番号、B/L番号)
- 『MARINE My Page』by損害保険ジャパン様(I/V) 等

- CONPAS※1は、コンテナターミナルのゲート前混雑の解消やコンテナトレーラーのターミナル滞在時間の短縮を図ることで、コンテナ物流を効率化することを目的としたシステム。
- 横浜港南本牧ふ頭コンテナターミナルでは、2021年4月より本格運用※2を開始。
- 神戸港PC-18、大阪港夢洲コンテナターミナルにおいても、2023年度中の本格運用開始に向けて試験運用を実施中。
- 横浜港本牧BC、本牧D1では導入に向けて調整中であり、東京港においても横展開に向けて取組を推進中。

【試験運用結果】



※1 CONPAS: Container Fast Pass の略

※2 「搬出入予約機能」「PSカード活用した受付機能」「搬入情報の事前照合機能」を常時運用すること

※3 搬入トレーラーの14%が CONPASで予約を行った場合

※4 ターミナルオペレーションシステム

『帳票』について

- CPでは、現実の貿易書類（I/V, P/L等）に相当する『帳票』別に情報項目を保持
 - 異なる『帳票』間でも、共通の情報項目はデータが自動連携される仕組み（ルートドキュメント）を採用。NACCS業務にも自動連携。
- ⇒ 上流情報が下流に自動反映されるため、再入力や照合作業が不要。

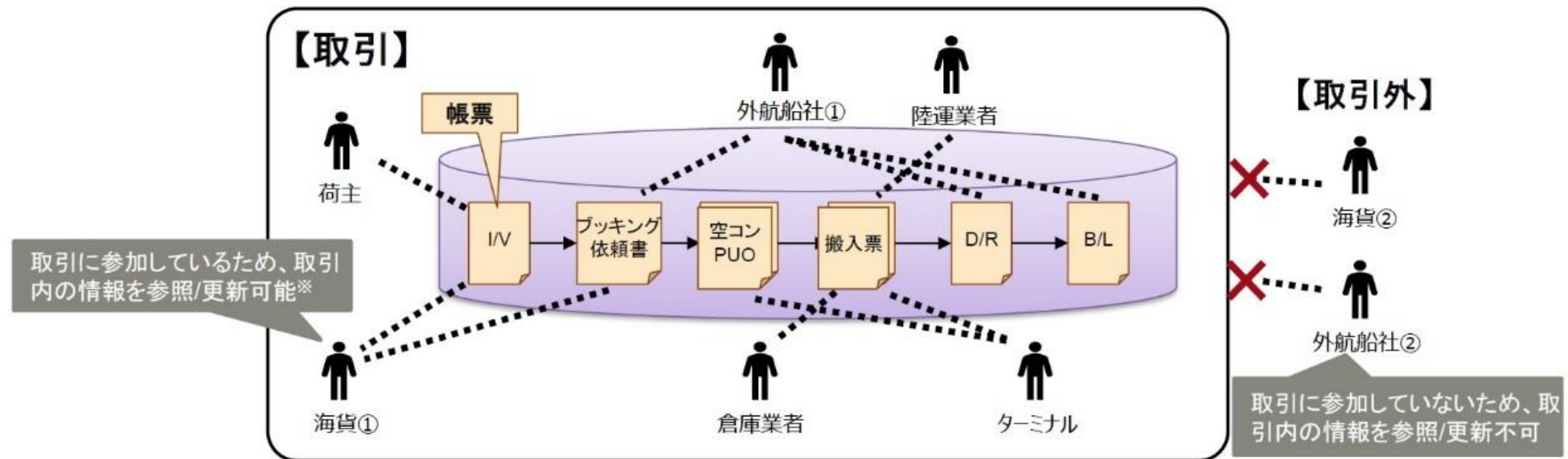
<輸出>

帳票コード	帳票名称	帳票コード	帳票名称
UL010	ブッキング依頼書	UL150	船荷証券(B/L)
UL020	危険物ブッキング依頼書	UL160	海上運送状(ウェイビル)
UL030	危険物明細書	UL170	複合運送証券
UL040	船積依頼書(S/I)	UL180	コンテナリスト
UL050	船腹予約確認書	UL190	バンニング作業依頼書
UL060	空コンテナピックアップオーダー	UL200	積荷目録
UL070	運送依頼書	UL210	フレート情報
UL080	機器受領書(EIR)	UL220	振込・振替明細帳票
UL090	コンテナ貨物搬入票	UL230	振込完了通知書
UL100	商業送り状(I/V)	UL240	B/L番号通知書
UL110	仮送り状	UL250	外航ブッキングリスト
UL120	パッキングリスト(P/L)	UL260	内航ブッキングリスト
UL130	ドックレシート(D/R)	UL360	納品書
UL140	コンテナ内積付書(CLP)	UL440	コンテナ確定重量報告書

<輸入>

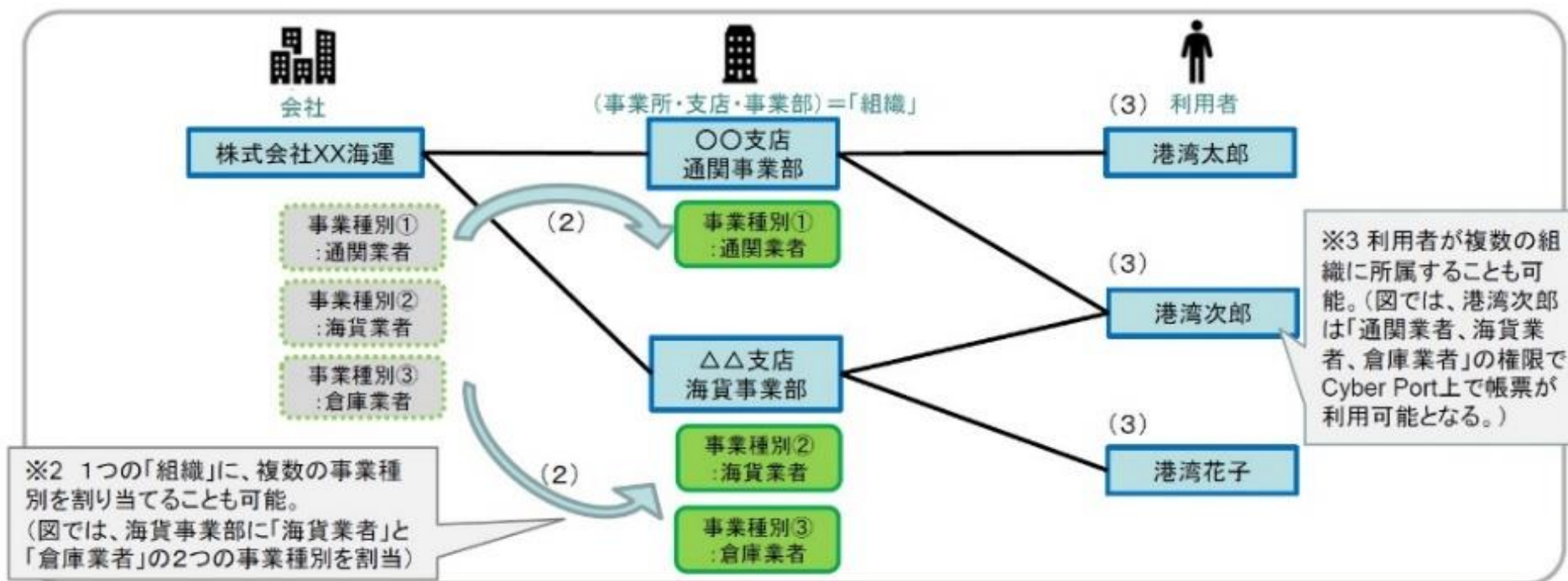
帳票コード	帳票名称	帳票コード	帳票名称
UL070	運送依頼書	UL270	輸入指図書
UL080	機器受領書(EIR)	UL280	輸入貨物荷捌依頼書
UL100	商業送り状(I/V)	UL290	到着通知(A/N)
UL110	仮送り状	UL300	荷渡指図書
UL120	パッキングリスト(P/L)	UL310	荷渡指図書レス申込書
UL150	船荷証券(B/L)	UL320	コンテナ貨物搬出票
UL160	海上運送状(ウェイビル)	UL330	CFS搬出票
UL170	複合運送証券	UL340	貨物輸送送り状
UL180	コンテナリスト	UL350	コンテナ貨物受領書
UL200	積荷目録	UL360	納品書
UL220	振込・振替明細帳票	UL480	ターミナル問合せ
UL230	振込完了通知書	UL490	ターミナル支払申込兼入金通知書
UL250	外航ブッキングリスト		
UL260	内航ブッキングリスト		

- 実務では、取引相手先との間で必要な情報のみを伝達。
- CP上でも、『取引』という仕様を設け、当該取引に参加している関係者のみ取引内の帳票を参照・更新可能とすることで、適切な情報の管理を確保。
- 『取引』の基本仕様は、次の通り。
 - ✓ 「取引」は、誰でも新規作成可能。
 - ✓ 「取引」に参加している者は、他者を取引に追加可能（追加されない限り他者の作成した取引には参加不可）。
 - ✓ 「取引」は、基本的にB/L単位で作成。



『組織(会社/組織/利用者)』について

- CPでは、「会社」-「組織」-「利用者」という3層でユーザーを管理。
- 「会社」単位で、事業種（業を証明する文書等を添付）を選択して利用登録。
- 「組織」は、事業所別・部署別等、自由に設定可能。「組織」には、会社別に登録した事業種を自由に割当可能。事業種に応じて各帳票へのアクセス権限が定まる（詳細後述）。
- 「利用者」は、「組織」に紐付けて、自由にアカウント作成可能。利用者の各帳票へのアクセス権限は、紐付けられた（=所属する）「組織」に依存。



『権限』について

- 帳票へのアクセス権限は、実務を踏まえて「帳票」別に「事業種」別の標準の権限を用意。
- アクセス権限の分類は、「ReadWrite」「Read」「—」の3段階。
- 権限は、「取引」ごとに、取引関係先を追加する際、権限を弱める方向にのみカスタム可能。

No	帳票アクセス権限	意味	説明
1	ReadWrite	参照/更新可	帳票の参照、作成、編集、削除が可能です。
2	Read	参照のみ可	帳票の参照のみ可能です。
3	— (権限なし)	アクセス不可	帳票を参照できません。

先を検索する

3 取引関係先を追加する

追加する取引関係先を選択

陸運

Kouwan

KouwanImpExpDep

☐ 他の取引関係先には非公開とする

アクセスできる帳票

権限

UL030 : 危険物明細書	Read
UL060 : 空コンテナピックアップオーダー	ReadWrite
UL070 : 運送依頼書	ReadWrite
UL080 : 機器受領書(EIR)	Read
UL090 : コンテナ貨物搬入票	ReadWrite
UL360 : 納品書	ReadWrite
UL440 : コンテナ確定重量報告書	ReadWrite
UL490 : ターミナル支払申込兼入金通知書	ReadWrite

取引関係先を追加する

NEW WAVE, NEW STANDARD.

港湾物流業界の、デジタル化の遅れを取り戻す。

港湾物流業務の効率化と
コンテナターミナルのゲート前混雑の解消等を図り、
港湾物流全体の生産性向上を目指す。

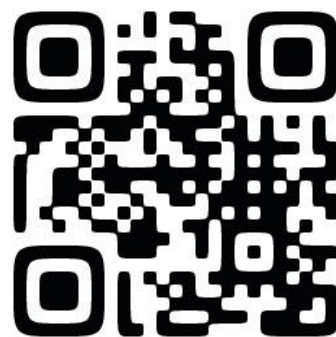
Cyber Portについて →

お問い合わせ →

Scroll Down



Cyber Port™



▲上の二次元バーコードより
ポータルサイトへアクセスできます